

学習意欲を育てる研究

「賞を与えてやる気をおこさせる指導のくふう」

千歳小学校 大橋 基

1 課題設定の理由

3年生になったという歓びを身体全体で表現してみせる子どもたちの姿には、まだまだ2年生の名残りが消えてはいなかった。自分の気の向くままに動き、屈託のない行動を友だちにぶつけ合う。一つ一つの言動は自己中心的で友だちどうしの協調性はあまりみられない。親密なつながりといえ、前年に同じクラスであった友だちどうしくらいであった。

そこで、児童ひとりひとりの個性を生かし、やる気をもって努力し、友だちどうしの結びつきをいっそう強めていける学級のふん開き作りを考えてみた。

それには、

①ひとりひとりが、めあてに向かって努力し、自分の力を出しきれるような手だてとしての賞

②友だちの気持ちになり、お互いに手を取り合っている手だてとしての賞

をめざして努力していけるような具体策を試みた。特に②の友だちどうしの助け合いを強調し、学習時はもちろん、清掃時、給食時、休み時間等の学校生活全般で実践できる方法を具体化してみた。

2 計画と実践

(1) 学校一斉に実施しているもの

ア 全校一斉テスト

数年前から、教育目標を具体化し、学習意欲を高める具体策の1つとして「全校一斉漢字テスト」及び「全校一斉計算テスト」が実施されている。全学級一斉に行なわれるテストで、児童たちは、合格賞をめざして、1週間はたいへんなもり上がりを見せる。

学期末、各学年とも学期内に既習した新出漢字100題と計算練習問題50題をそれぞれプリントし（問題は各学年の国語部と算数部委員が作成）1週間の練習期間を与える。1週間後の指定日に、プリントの中から出題された25題のテストを実施し、20題（80点）以上の正解を合格とし、合格者には合格賞を与える。

（学級のやくそく）

- 問題が出されたら、テスト日まで毎日、漢字20題、計算練習10題を練習ノートにやる。
- 朝の自習時に係の児童が、漢字、計算をそれぞれ5題ずつ出題する。
- むずかしいと思う問題は、友だちどうしで教えあい、助けあう。
- 合格をめざしてがんばろう。

（結果と考察）

・3年2組 在籍39名

1学期末 漢字テスト合格（80点以上） — 34名（87%）

2学期末 漢字テスト合格（ " ） — 35名（89%）

1学期末 計算テスト合格(80点以上) — 32名(82%)

2学期末 計算テスト合格(80点以上) — 35名(89%)

- 合格者に合格賞を授与(全校同一規定の賞状)し、ますます意欲が高まってきた。
- 学期末が近づくと、両テストに全校児童の関心が高まり、やや過熱気味にまでなってしまった。
- 父母の関心度も高く、家庭学習の仕方もわかり、力もはいつてきた。
- 学業の遅れがちな児童には特に配慮し、合格できなかった児童にも努力のあとを認めた努力賞を与えた。

(資料1) 合格賞

(資料2) 努力賞

足利市立千歳小学校長	昭和 年 月 日	おさめたので賞します	たいへんりっぱな成績を	あなたは校内漢字テストで	合格賞	年組

昭和 年 月 日	千歳小三の二担任	ください	これからも努力をつづけて	で賞します	たいへん努力をしましたので	あなたで	努力賞

イ 生活反省カード

児童指導部作成の生活反省カードに毎日記入(○△×)させ、日々の生活を反省し、よりよい生活習慣へとしむけている。(資料3)

学級としては、毎週土曜日、グループごとに集計させ、全項目○印の児童には賞を与え賞賛しあっている。(賞は、牛乳のフタのうらに賞と書いたもの) 賞は、教室内の掲示板の名簿にはり、数を競いあっている。

(結果と考察)

		15個以上	10個以上	5個以上	2個以上
1学期	男	1名	3	8	5
	女	3	10	6	2
2学期	男	3	5	5	0
	女	8	7	3	1

- ・4人グループ全員が好成績を残したグループ内全員に賞を2個ずつ与えた。
- ・生活反省カードを毎週土曜日には、家に持ち帰らせ、父母の検印をもらうやくそくになっていたので、家庭での関心も高まってきた。
- ・2学期になってから全員○印(グループ賞)は延14グループもの数にふえてきた。
- ・生活反省カードは、各自の生活態度の反省(自己反省)を記入するものであるが、グループ競争という形にすすめたので、グループ内でお互いに注意しあい、友だち関係の結びつきが強くなり、望ましい学級経営(特に小グループ指導)に近づきつつある。
- ・2学期の後半になって、ややマンネリ化し、賞をとるための記入に走る傾向がみられるようになってきたので、項目によっては、グループ内で相互に評価させてみた。その結果、単に賞をとるだけでなく、お互いに悪い行動を改めていこうというふん囲気がでてきた。

生活反省カード		年組	生活目標			
		なまえ	元気な子どもになろう			
(10) 月	日	曜日	①	②	③	大きな いんじ なわとび
1	土	土				
3	月	月				
4	火	火				
5	水	水				
6	木	木				
27						
28	金	金				
29	土	土				
31	月	月				
①		休み時間には外で元気にあそぼう				
②		給食のおかずを残さず食べよう				
③		廊下を静かに歩こう				

ウ 清掃しらべ

児童会美化委員会（5・6年生）が、毎月々末を清掃週間と決め、校舎内外の清掃区域の点検を行なっている。清掃週間には委員が毎日、清掃後に見てまわり、清掃場所に貼ってあるカードに○×の印をつける。

（評価の基準） 月一ゆかがきれいに見がかれている。（○△×）

火一さんやしきいにはほりがなく、よくふかれている。（○△×）

水一ごみがなく、ごみ箱もきれいになっている。（○△×）

木一ゆかがよくみがかれている。（○△×）

金一清掃用具がきめられた場所にきちんとおさめられている。（○△×）

一週間の結果（5日間）、全部○のクラスには、花形の賞が与えられる。

（学級でのやくそく）

- グループ全員が20分間、話をしないでやろう。
- 全員が助け合ってやろう。
- 毎月、賞をとろう。

（結果と考察）

・3年2組 清掃場所3カ所の結果

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
教室	×	×	×	○	△	○	○	○				
南西階段	×	×	△	○	×	×	○	×				
北西階段	×	○	×	×	×	○	○	○				

・1学期ごろは、清掃の仕方の要領がまだ不十分だったが、2学期にはいり、グループの協力体制ができてきたようだ。

・賞をとりたいたいという学級内のふん囲気もありあがり、昼食時に結果が放送されると歓声をあげてよろこぶ。ひとりひとりの力が結集されたたまものである実感を味わったようだ。

- ・各グループとも班長を中心として全員が協力しあわなければ、目標達成はむずかしいということを身をもって感じてきたようだ。

(2) 学年・学級で実施しているもの

ア 善行賞 (画用紙 $\frac{1}{4}$ の大きさの賞状)

毎週土曜日の反省会には、生活係から1週間の反省が出され、記録をもとにより行ないのお友だちを推せん、表しょうするしくみになっている。児童たちにやる気をおこさせる場面として、各係の仕事、休み時間中に友だちとのトラブルをなくした。給食準備中にすすんで手伝った。……………

(結果と考察)

5月 ～ 7月 — 0

9月 — 5人

10月 — 13人

11月 — 21人

- ・1学期当時の3年生は、まだまだ自分中心で友だちのよい行ないをほめたたえろといった気持ちは、まだ育ってなかった。
- ・2学期になってから、ようやく、学級もまとまり、学級委員やグループのリーダーを中心にした共同学習、共同作業が身についてきた。これも、お互いにより点をみつけ、励まし、ほめあっている結果だと思われる。
- ・小さな行ないでも、誠意をもってお友だちのために行動しようとする態度が徐々に芽生えてきた様な気がする。めだった行動をとってきたS君も自分の行動をふりかえるようになってきた。

(児童の声) A (男) ……賞をもらったときはすごくうれしい。

B (男) ……おかあさんにほめられるから、もっともらいたい。

C (女) ……何まいたまるかたのしみです。

D (男) ……いっぱいもらった人が学級委員になるといい。

E (女) ……わたしは、あまり賞をもらったことがないので、これからももらいたい。

イ ぼくの記録、わたしの記録 (体力づくりをねらったもの) (資料4)

3年生全員になわとび、てつぼう、ボール投げ (ドッジボール) の3種目を業間時または自由時に友だちと2人組でトレーニングさせ、カードの上位の項目をねらわせる。

5級が最下位とし、4級、3級、2級、1級までの規定種目が通過できた項目に○印をつけていく。児童の自主的な活動にゆだね、友だちと組んで、技能を高め、上位をねらうようにすすめる。

(学級のやくそく)

- 2人または3人グループでやり方をくふうしてやっぴいこう。
- 1級をめざして助けあっぴいこう。

「ぼくの記録、わたしの記録」 (資料4)

ぼくの記録、わたしの記録		3年()組 []	
	なわとび	てっぼう	ボール投げ
5級	・れんぞく10回 ・後ろとび1回	・うで立てとび上がり ・足ぬき回りおり	・2号ボール 5m
4級	・れんぞく30回 ・ばつとび1回 ・後ろとび3回	・足ぬきまわり ・さか上がり ・前回りおり	・2号ボール 8m
3級	・れんぞく50回 ・ばつとび3回 ・後ろとび5回	・足かけふり上がり ・後ろ回り	・10m
2級	・れんぞく80回 ・二重とび5回	・足かけ後ろおり ・後ろ回り	・15m
1級	・れんぞく100回 ・二重れんぞく5回 ・後ろばつ10回	・後ろ回り2回 ・前回り2回 ・ふみこしおり	・20m
検印			

(結果と考察)

	なわとび		てっぼう			ボール投げ		
	9月	11月	5級	9月	11月	5級	9月	11月
5級	9人	4人	5級	10人	9人	5級	4人	3人
4級	12人	6人	4級	13人	6人	4級	10人	6人
3級	9人	16人	3級	2人	9人	3級	18人	23人
2級	6人	5人	2級	12人	10人	2級	6人	5人
1級	3人	8人	1級	2人	5人	1級	0人	2人

- ・最初のころ(9月)は、意欲的に時間をおしんで練習をしていたが、ある程度級があがるにしたがってかべに当たってきた。ちょうど運動会の練習の時期にあたったため時間もなくなってきた。
- ・1級合格ごとに合格賞(資料2)を与えて、やる気を持続させたが、なかなかむずかしいので組んでいる2人が、協力しあう方法をいろいろふうさせた。
- ・一方、教室内に努力のあしあとを表にまとめ、掲示し、常に友だちの進級の様子を見る様にすすめた。日記に合格のよろこびを書く児童がふえてきた。

(児童の日記より)

K子 (10/31) ……わたしは、ボール投げが3級で、鉄ぼうが2級、なわとびが1級に出来ました。全部1級になれるようがんばります。

S子 (11/8) ……11月中には2級に合格できるようにがんばりたい。わたしは、どうして、ボール投げがだめなんだろう。A子ちゃんみたいにうまく投げられるようになりたい。

M夫 (11/15) ……毎日、ボール投げをやっているので、1級がわかりました。

H男 (11/6) ……ぼくは、体育がきらいなので、あまりできない。みんなみたいにうまくなりたいけどわからない。だけど、すこしずつやっていたら、きょうになるかもしれない。

・毎日、6～7名の日記を見ているが、合格のよろこびを書いている児童、つらさを訴えている児童など、ほとんど毎日、賞に関する話題をとりあげている児童が多い。

結果よりも努力している過程を重視していかなければならない。

・3か月めごろになってくると、子どもたちの中には、自分の力の限界を考慮して、
「もうだめだ」「どうせだめだ」など泣きごとを言い出す者も出てきた。特に気をつけなければいけない時期になってきた。やる気をなくしてしまはいけない。しばらく休ませ、組んでいるグループを交代させたり、できた子どもの演技をよく見せたりして個別指導を行った。

3 反省及び今後の課題

- 学習意欲を育てることこそ学級経営そのものであると思う。それには、教師は、児童ひとりひとりのちがった個性、能力をいかにして伸ばしていくかという課題をあらゆる場面で育てていく根気とくふうが必要である。子どもとの根くらべに負けてはいけない。
- 子どもたちは、自分の努力のあとを賞で自己評価してはいるが、目標は賞をとることではないことをはっきり認識させておかないと大変な誤りをおかしてしまう結果になる。ややもするとその傾向に走りがちになり、現にその徴候がみられてきたので、結果を迫わず、努力の課程に目を向けさせるとともに、それが大切であることを十分指導した。
- あたりまえのことをあたりまえにやっている学級経営の一事例にすぎないが、教師も児童とともに弛まず努力し、わずかな成果を望みながら続けていきたい。

評

毎日の学級経営の営みの中で、父母からの願い、訴えを聞くと、教師のひと言の励まし、賞賛があったら、学習意欲もまし、その子も好ましい成長発展をしたであろうと予想されるケースがままある。励まし、ほめることは、落ちこぼれの児童を出さぬための重要な手だてでもある。

この実践記録は、教師が児童の心理に合った方法の一つである。競争意識と児童相互の励ましをうまく組み合わせ、自主的に行動をさせるし方と目標をもたせるなどして、漢字テスト、計算テスト、生活反省カード、清掃しらべ等、時・場所・内容により具体的な賞を与え、児童のやる気を育てようと、いろいろ工夫している。

特筆したいのは、教師の温かい目、温かい心で、合格賞は手にしなかったが、行為の過程で努力をしたと認めた児童には、努力賞を与えるなど、真剣に取り組むすべての子どもに、公平な励ましと賞賛の機会をもっていることはすばらしい。人はだれしも励まされ認められたい願望を持っているものである。

各校においても、この実践例を参考にしながら、励ましと賞賛で、児童・生徒一人一人に学習意欲を盛り上げる指導法をさらに研究してほしい。